

## 高等学校 国語

- 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

出典は、村上陽一郎「近代科学を超えて」(一九八六年 講談社学術文庫)

語注

- ※1 シャーマニズム……シャーマン(呪術を行う巫者)に依拠する信仰形態
- ※2 フアナティズム……心酔、熱狂、狂信
- ※3 カリカチュア……誇張や歪曲を施した人物画
- ※4 ヴァイタル……活気のある、力強い
- ※5 カサンドラ……ギリシャ神話に登場する悲劇の預言者

問一 傍線部①「ラシンバン」、⑥「ルロウ」のカタカナを漢字に直せ。

問二 傍線部②「遠隔的」とあるが、ここではどのような意味で用いられているか。本文の叙述に即して十五字以上二十字以内で説明せよ。

問三 傍線部③「東洋の知恵」、④「西欧の技術感覚」とあるが、それぞれどのような内容か。③は「こと」、④は「感覚」に続くように、本文中からそれぞれ七字で抜き出して答えよ。

問四 傍線部⑤「この同時代的異質化(インバランス)は、社会体制でも政治の機構でもなく、科学技術によつてもたらされている」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 科学技術を用いて自然との闘いに勝った人々が、さらに大きな苦痛を感じているということ。
- イ 科学技術に対して消極的であった東洋の国々が、経済的に敗者となつてしまつてきているということ。
- ウ 科学技術が発展した国や地域の人々も、苦しみから逃れられないという点では他と変わらないということ。
- エ 科学技術に対する考え方の違いが、何に苦痛を感じるかという価値観の違いに表れているということ。
- オ 科学技術の発展を成し遂げたかどうか、飢餓の苦しみの有無と大きく関係しているということ。

問五 傍線部⑦「科学技術の発展をしかるべき期間凍結して、人類の未来に思いをめぐらせることも、まんざらばかげたことではないかもしれない」とあるが、そのように言えるのはなぜか。四十五字以上五十字以内で述べよ。

問六 空欄 A・B に入る言葉として適当なものを、次のア～キの中から二つ選べ。ただし A・B の順序は問わない。

ア 哲学      イ 手段      ウ 信念      エ 現象      オ 主体      カ 媒介      キ 消費

問七 傍線部⑧「現象として現れるものではなく、まさしくわれわれの精神と意志の王国に求める」とあるが、どのようにするとか。「現象として現れるものではないこと」の説明も含め、本文中の言葉を用いて五十五字以上六十字以内で述べよ。

問八 この文章を読んだ生徒に、本文の趣旨を踏まえ、現在の自分たちの生活について考えることを課した。次のア～オはその中の五人の発言である。本文の趣旨を踏まえた発言として適当なものを、ア～オの中からすべて選び、記号で答えよ。

ア：生徒 A 筆者は自然を闘う対象と考えていますが、現在の私たちは自然との共生を優先して考えるようになってきました。リサイクルや自然保護活動が生活に根づいているということは、筆者の言う「滅びの日」は一応回避できたと考えます。

イ：生徒 B この文章が書かれた頃とは社会が大きく変化しましたが、苦しみや恐怖はどうでしょうか。病気に苦しむ人は今も多いし、過労死の問題も深刻です。筆者はこれらの恐怖や苦痛の克服を強く訴えましたが、いまだ解消されていません。

ウ：生徒 C コンピューターの例が挙げられていたところで、私はスマホ依存のことを思い浮かべました。昔に比べて生活は便利になりましたが、機械に操られているという点では、筆者が問題視したことはむしろ悪化していると思います。

エ：生徒 D 文章中には公害のことが書かれていましたが、現在では地球温暖化の問題が深刻です。科学技術が招いてしまった環境問題は科学の力によつて乗り越えていくしかないという筆者の考えは、現在にもあてはまると感じました。

オ：生徒 E 筆者の考える二次的恐怖について、私は現在では国家間の争いの激化がこれにあたると思いました。これは、生活上の苦しみから多くの国が解放され、人々の意識が自国と他国の関係に向かったためではないでしょうか。

二 次の文章は、「平家物語」の一部であり、一の谷の戦いで討ち死にした平通盛と、その後を追って入水した妻の小宰相とが出会った頃の場面である。これを読んで、後の問いに答えよ。

出典は「新編日本古典文学全集46 平家物語②」（小学館）

語注

- ※1 玉草……手紙  
 ※2 妓炉のけぶり……ここは手紙にたきこめられた香のこと。  
 ※3 筆のたてど……筆づかい  
 ※4 中比……「あまり古くない昔」の意。

問一 傍線部①「亮」、②「供奉」の語句の読みを、現代仮名遣いで、ひらがなで答えよ。

問二 波線部ア～エの敬語について、それぞれの敬意の対象はだれか。本文中に用いられている人物名で答えよ。

問三 傍線部③「我里」、⑥「なさけのみち」の本文中での意味を簡潔に答えよ。

問四 傍線部④「むなしうかへり参らん事の本意なさに」、⑤「通盛の卿の申すとは、かねてよりしろしめされたりければ」をそれぞれ現代語訳せよ。ただし、⑤は「申す」についての具体的内容を補うこと。

問五 本文中には、小野小町について述べられた部分があるが、その内容の説明として適当なものを、次のア～オの中からすべて選び、記号で答えよ。

- ア 小野小町の姿を見聞きした者は、みな穏やかな気持ちになった。  
 イ 小野小町は、一人の男性以外には決して心を許さなかった。  
 ウ 小野小町に手紙を出す男性は、しだいに少なくなっていくた。  
 エ 小野小町が晩年住んだ家は、屋根が破損し星空が見えた。  
 オ 小野小町は晩年、野草を摘んで食べはかない命を過ごした。

問六 本文中のA、Bの和歌について、次の(1)～(3)の問いに答えよ。

- (1) A、Bの和歌について、それぞれの詠み手はだれか。本文中に用いられている人物名で答えよ。  
 (2) Aの和歌に用いられている修辞を説明せよ。  
 (3) Bの和歌には詠み手のどのような意図があるか。七十字以上八十字以内で説明せよ。

問七 本文の文体の特徴とその表現効果について述べた次の説明の、空欄ア～ウにあてはまる言葉を答えよ。

合戦場面の力強い文体に比べると、(ア)調を多用した流麗な和文体に、和歌を配するなどして王朝的な雰囲気を感じ出している。またその中にも「ひと」「つと」といった(イ)の使用や、文意を強める(ウ)の多用など、「平家物語」に特徴的な表現方法も見られ、全体として生き生きとした描写の文章となっている。

問八 「平家物語」と同じく、平安末期から鎌倉初期の争乱を題材をとった軍記物語として適当ではないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 太平記      イ 保元物語      ウ 源平盛衰記      エ 平治物語

☐

「高等学校学習指導要領（平成二十二年三月）「国語総合」には、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」として、「言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること」という指導事項がある。これを、古典を読むことの指導を通して行う場合、あなたはどのような単元を設定して授業を展開していくか。単元名を明らかにしたうえで、生徒が興味・関心の広がりを実感できるような授業展開例を、具体的に述べよ。

四 次の文章は「後漢書」の一節である。後漢の武将班超は、西域諸国を匈奴から離反させる目的で、使者としてその一国である鄯善に派遣された。王の広は班超を歓待したが、匈奴の使者が総勢百人以上で訪ねてくると、急に冷淡になった。班超は広に匈奴と手を組もうとしているのではないかと疑い、鄯善の接待役（侍胡）を呼び出した。本文はその続きの部分である。これを読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合上、訓点を省略した箇所がある。

※著作権法に基づき掲載は省略します

出典は「後漢書 第六冊 列伝四」（岩波書店）  
（訓点を改変した部分がある）

語注

- ※1 詐……試す。かまをかける。
- ※2 服……打ち明ける。
- ※3 吏士……部下の役人。後の「属」「官属」も同じ。
- ※4 卿曹……部下に呼びかける言葉。
- ※5 虜……匈奴を罵った言葉。
- ※6 豺狼……山犬と狼。
- ※7 司馬……將軍。ここでは班超のこと。
- ※8 從事……文官。

問一 傍線部①「安」、②「具」の本文中での意味を簡潔に答えよ。

問二 傍線部③「悉」、⑥「独」の読みを、現代仮名遣いで送り仮名も含めて、ひらがなで答えよ。

問三 傍線部④「如令鄯善収吾属送匈奴」を書き下し文に改めよ。

問四 傍線部⑤「為之奈何」、⑧「当与從事議之」をそれぞれ現代語訳せよ。ただし、⑧については「之」の指示内容を明らかにすること。

問五 文中の空欄には、後に故事成語となった班超の言葉が入る。その言葉として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 苛政猛於虎也
- イ 狐借虎威
- ウ 西虎共闘、其勢不俱生
- エ 不入虎穴、不得虎子

問六 傍線部⑦「因夜以火攻虜」とあるが、これには戦略上どのような利点があると班超は考えているか。簡潔に説明せよ。

問七 傍線部⑨「衆曰『善』」とあるが、このように部下をまとめるために班超はどのような行動をとったか。六十五字以上七十字以内で述べよ。